(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第6482496号
(P6482496)
(45)発行日　平成31年3月13日(2019.3.13)　(24)登録日　平成31年2月22日(2019.2.22)

(51)Int.Cl.　F I
A44B 99/00 (2010.01)　A44B 99/00 611N

請求項の数 4　(全 10 頁)

(21)出願番号　特願2016-100626(P2016-100626)
(22)出願日　平成28年5月19日(2016.5.19)
(65)公開番号　特開2017-205345(P2017-205345A)
(43)公開日　平成29年11月24日(2017.11.24)
審査請求日　平成30年3月13日(2018.3.13)

(73)特許権者　000135209
株式会社ニフコ
神奈川県横須賀市光の丘５番３号
(74)代理人　100098202
弁理士　中村　信彦
(74)代理人　100077241
弁理士　桑原　稔
(72)発明者　清水　洋兵
神奈川県横須賀市光の丘５番３号　株式会社ニフコ内

審査官　木原　裕二

最終頁に続く

(54)【発明の名称】紐の端末カバー

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
紐の端末に取り付けられる端末カバーであって、
第一指掛け面を備えた指掛け突部と、第二指掛け面を備えた基部とを備えており、
前記第二指掛け面を、前記第一指掛け面を利用して前記紐に引っ張り力を作用させたときに、前記第一指掛け面を支点とした前記端末カバーの回転を抑止する位置に備えさせてなり、
前記紐の前記端末に対する係止部を備えたロック部材と、このロック部材が内部にはめ込まれると共に前記内部に前記係止部と協働して前記端末に前記端末カバーを固定させる係止面を備えたケース部材とを備えており、
前記ケース部材を、前記指掛け突部の一部となる突出部を有していると共に、前記突出部における前記第一指掛け面の形成側と反対の側に前記ロック部材のはめ込み開口を形成させ、かつ、前記第一指掛け面の形成側に前記紐の引き出し開口を形成させたものとしてなる、紐の端末カバー。
【請求項２】
前記第一指掛け面は仮想の第一平面に実質的に沿うように形成され、前記第二指掛け面は仮想の第二平面に実質的に沿うように形成されていると共に、
前記第一平面と前記第二平面とのなす劣角が鋭角となるようにしてなる、請求項１に記載の紐の端末カバー。
【請求項３】

前記第一指掛け面及び前記第二指掛け面を、いずれも、仮想の円の円弧に沿うように形成させてなる、請求項１又は請求項２に記載の紐の端末カバー。
【請求項４】
前記基部に、貫通孔を形成させてなる、請求項１～請求項３のいずれか１項に記載の紐の端末カバー。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、紐の端末カバーの改良に関する。
【背景技術】
【０００２】
紐の端部を収容する筒状のソケットと、このソケットにはめ込まれるプラグとからなり、二つの紐の端部間にプラグの脚部を介在した状態からプラグの脚部側をソケットにはめ込むことでプラグの脚部とソケットとの間で紐の端部を挟み付けて紐の端部に取り付けられる紐止め具がある（特許文献１参照）。
【０００３】
かかる紐止め具は、紐を引っ張る操作を行うときに把持される引き手ともなる。しかるに、特許文献１のソケットは単純な扁平角筒状を呈しているに過ぎず、前記把持を容易とする格別の形状は施されていない。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特許第４５２８６８７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
この発明が解決しようとする主たる問題点は、この種の紐の端末カバーを掴みやすく、また、掴んだ状態で紐に十分な引っ張り力を作用させることができるようにする点にある。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
前記課題を達成するために、この発明にあっては、紐の端末カバーを、紐の端末に取り付けられる端末カバーであって、
第一指掛け面を備えた指掛け突部と、第二指掛け面を備えた基部とを備えており、
前記第二指掛け面を、前記第一指掛け面を利用して前記紐に引っ張り力を作用させたときに、前記第一指掛け面を支点とした前記端末カバーの回転を抑止する位置に備えさせてなる、ものとした。
【０００７】
前記第一指掛け面と前記第二指掛け面とによって、端末カバーは掴みやすく、また、掴んだ状態で紐に十分な引っ張り力を作用させることができる。例えば、手袋をした状態でもグリップ性高く端末カバーを掴むことができ、また、その状態で紐に十分な引っ張り力を作用させることができる。
【０００８】
前記第一指掛け面は仮想の第一平面に実質的に沿うように形成され、前記第二指掛け面は仮想の第二平面に実質的に沿うように形成されていると共に、
前記第一平面と前記第二平面とのなす劣角が鋭角となるようにしておくことが、この発明の好ましい態様の一つとされる。
【０００９】
前記第一指掛け面及び前記第二指掛け面を、いずれも、仮想の円の円弧に沿うように形成させてておくことが、この発明の好ましい態様の一つとされる。

【００１０】
また、前記端末カバーは、前記紐の前記端末に対する係止部を備えたロック部材と、このロック部材が内部にはめ込まれると共に前記内部に前記係止部と協働して前記端末に前記端末カバーを固定させる係止面を備えたケース部材とを備えてなるものとすることが、この発明の好ましい態様の一つとされる。
【００１１】
また、前記ケース部材を、前記指掛け突部の一部となる突出部を有していると共に、前記突出部における前記第一指掛け面の形成側と反対の側に前記ロック部材のはめ込み開口を形成させ、かつ、前記第一指掛け面の形成側に前記紐の引き出し開口を形成させたものとすることが、この発明の好ましい態様の一つとされる。

【００１２】
また、前記基部に、貫通孔を形成させてなるものとすることが、この発明の好ましい態様の一つとされる。
【発明の効果】
【００１３】
この発明によれば、紐の端末カバーを掴みやすく、とりわけ手袋をした状態や、握力の低下した状態でも掴みやすく、また、掴んだ状態で紐に十分な引っ張り力を作用可能なものとすることができる。
【図面の簡単な説明】
【００１４】
【図１】図１は、この発明の一実施の形態にかかる紐の端末カバーの分離斜視図である。
【図２】図２は、前記端末カバーの分離正面図である。
【図３】図３は、前記端末カバーの分離背面図である。
【図４】図４は、前記端末カバーの使用状態を示した正面図である。
【図５】図５は、図４におけるＡ－Ａ線位置での断面図である。
【図６】図６は、前記端末カバーの正面図である。
【図７】図７は、前記端末カバーの背面図である。
【図８】図８は、前記端末カバーの側面図である。
【図９】図８は、前記端末カバーの側面図であり、図８の右側からこれを見て示している。
【図１０】図１０は、前記端末カバーを構成するケース部材の側面図である。
【図１１】図１１は、前記ケース部材の側面図であり、図１０と反対となる側の側面図である。
【図１２】図１２は、前記端末カバーを構成するロック部材ケース部材の側の側面図である。
【図１３】図１３は、前記ロック部材の側面図であり、図１２の左側からこれを見て示している。
【図１４】図１４は、前記ロック部材の側面図であり、図１２の右側からこれを見て示している。
【発明を実施するための形態】
【００１５】
以下、図１～図１４に基づいて、この発明の典型的な実施の形態について、説明する。この実施の形態にかかる紐Ｓの端末カバーＣは、紐Ｓの端末Ｓａを内部に納めてこの端末Ｓａに取り付けられるものである。かかる紐Ｓは、このように端末カバーＣが取り付け可能なものであれば、その形状（丸紐Ｓ、平紐Ｓなど）、材質や構造（編み紐Ｓ、ゴム紐Ｓ、合成樹脂製の紐Ｓなど）は問われない。かかる端末カバーＣは、各種の物品に備えられる紐Ｓの端末Ｓａの意匠性を向上させる。また、かかる端末カバーＣは、前記紐Ｓの端末Ｓａのほどけを防ぐ。また、かかる端末カバーＣは、前記紐Ｓを引っ張る操作などを行いやすくする。

【００１６】
前記端末カバーＣは、第一指掛け面５を備えた指掛け突部１と、第二指掛け面６を備えた基部２とを備えている。
【００１７】
前記第二指掛け面６は、前記第一指掛け面５を利用して前記紐Ｓに引っ張り力（図５における符号ｆの向きの力）を作用させたときに、前記第一指掛け面５を支点とした前記端末カバーＣの回転（図５における符号ｒの向きの回転）を抑止する位置に備えられている。
【００１８】
図示の例では、図５における左側に位置される第一指掛け面５に右手又は左手の手指の一つ、例えば親指を掛け、図５における上側に位置される第二指掛け面６に右手又は左手の手指の他の一つ、例えば人差し指をあてがい、図５における右側に端末カバーＣを介して紐Ｓを引っ張る操作が可能とされる。
【００１９】
前記第一指掛け面５と前記第二指掛け面６とによって、端末カバーＣは掴みやすく、また、掴んだ状態で紐Ｓに十分な引っ張り力を作用させることができる。例えば、手袋をした状態でもグリップ性高く端末カバーＣを掴むことができ、また、その状態で紐Ｓに十分な引っ張り力を作用させることができる。
【００２０】
前記第一指掛け面５は仮想の第一平面ｍ１（図５参照）に実質的に沿うように形成され、前記第二指掛け面６は仮想の第二平面ｍ２（図５参照）に実質的に沿うように形成されている。それと共に、前記第一平面ｍ１と前記第二平面ｍ２とのなす劣角θ（図５参照）は鋭角となるようになっている。
【００２１】
これにより、前記紐Ｓに引っ張り力を作用させたときにの前記端末カバーＣの回転を効果的に抑止するようになっている。
【００２２】
また、前記第一指掛け面５及び前記第二指掛け面６は、いずれも、仮想の円の円弧に沿うように形成されている。具体的には、前記第一指掛け面５及び前記第二指掛け面６はいずれも、前記劣角側を湾曲外側とするように緩やかに湾曲した面となっている。
【００２３】
これにより、前記第一指掛け面５及び前記第二指掛け面６には指をあてがいやすく、グリップ性高く端末カバーＣを掴むことができるようになっている。
【００２４】
図示の例では、端末カバーＣは、ロック部材３と、ケース部材４とから構成されている。
【００２５】
前記ケース部材４は、前記指掛け突部１の一部となる突出部２２を有している。また、前記基部２は前記ケース部材４に備えられている。
【００２６】
図示の例では、ケース部材４の基部２は、長さと幅とを備え、正面視の状態において実質的に四角形状を呈している。基部２の二箇所の幅側辺部７、７のうちの一方は他方より長く、基部２は図６における右側から左側に近づくに連れて幅を漸減させるように構成されている。
【００２７】
基部２の長さ方向中程の位置と、長い幅側辺部７（図６の右側）との間には、貫通孔８が形成されている。貫通孔８は、基部２の外郭形状に倣った孔内形状を備えている。基部２の長さ方向に沿う向きでの貫通孔８の長さは、基部２の一面側９（第二指掛け面６の形成側）で大きく、基部２の他面側１０で小さくなっており、これにより、基部２の長さ方向中程の位置にある貫通孔８の孔内壁８ａは、基部２の他面側１０に向かうに連れて貫通

孔８の長さを減ずる傾斜面となっている。これにより、この実施の形態にあっては、かかる貫通孔８に紐Ｓなどを通すことにより、端末カバーＣを介して端末カバーＣの取り付けられた紐Ｓと、前記貫通孔８に通された紐Ｓなどとを連結できるようになっている。

【００２８】

基部２の短い幅側辺部７（図６の左側）には、前記第一指掛け面５に対して実質的に直交する厚さ側端面１１が形成されている。この厚さ側端面１１と貫通孔８との間には、基部２の他面側１０において、前記突出部２２が形成されている。前記突出部２２は、頂部２２ａに近づくに連れて基部２の長さ方向に沿う向きでの厚さを減ずる山状に形成されており、前記厚さ側端面１１に続く前記第一指掛け面５と、この第一指掛け面５の反対の側に位置される面２２ｂとをいずれも傾斜させている。すなわち、前記突出部２２は、前記基部２の幅方向に沿った長さを持った頂部２２ａと、前記第一指掛け面５と、前記反対の側に位置される面２２ｂと、両面間５、２２ｂに位置される突出部２２の厚さとなる面２２ｃ（基部２の長さ方向に沿った基部２の側面の一部）とを備えている。

【００２９】

前記基部２における、前記貫通孔８と前記突出部２２の頂部２２ａとの間には、前記ロック部材３のはめ込み開口１２が形成されている。また、前記基部２の厚さ側端面１１には、紐Ｓの引き出し孔１３が形成されている。

【００３０】

前記基部２の内部には、前記傾斜面となっている貫通孔８の孔内壁８ａを構成する部分、前記基部２の一面側９を構成する部分、前記突出部２２の前記第一指掛け面５を構成する部分、前記突出部２２の厚さとなる面２２ｃを構成する部分によって囲繞された前記ロック部材３のはめ込み空間１４が形成されている。

【００３１】

一方、前記ロック部材３は、前記紐Ｓの前記端末Ｓａに対する係止部１６を備えている。

【００３２】

図示の例では、ロック部材３は、基板部１７と、この基板部１７との間に紐Ｓの端末Ｓａを納める間隔を開けて配される挟持板部１８と、基板部１７と挟持板部１８とを連接する連接部１９とを備えている。連接部１９はその両側にそれぞれ、紐Ｓの端末Ｓａを収容できるように前記基板部１７と挟持板部１８とを連接しており、基板部１７及び挟持板部１８の互いに向き合う内面のいずれにも直交する壁状を呈している。

【００３３】

前記係止部１６は、前記連接部１９から突き出す爪状を呈している。前記係止部１６は、前記連接部１９の両側にそれぞれ形成されている。係止部１６は、ロック部材３における収容される紐Ｓの引き出し側となる図１２の左側に形成されている。係止部１６の形成側と反対の側となる図１２の右側には、基板部１７の内面から立ち上がる立ち上がり部２０が形成されている。

【００３４】

ロック部材３は、前記挟持板部１８の外面を前記基部２の一面側９を構成する部分の内面に接しさせる向きで、図１２における左側から前記はめ込み開口１２を通じて前記はめ込み空間１４内にはめ込むことができるようになっている。このはめ込み状態において、前記基板部１７の外面によって前記はめ込み開口１２が塞がれるようになっている。また、このはめ込み状態は、基部２の前記傾斜面となっている貫通孔８の孔内壁８ａを構成する部分に形成された係合孔２３に前記基板部１７の前記立ち上がり部２０の外面に形成された係合突部２１がはめ込み終了位置でケース部材４及びロック部材３の双方又はいずれか一方の弾性復帰によって納まることにより、維持されるようになっている。

【００３５】

前記ケース部材４の内部としての前記はめ込み空間１４には、前記係止部１６と協働して前記端末に前記端末カバーＣを固定させる係止面１５が形成されている。図示の例では、かかる係止面１５は、前記突出部２２の厚さとなる面２２ｃを構成する部分の内面によ

って構成されている。

【００３６】

ロック部材３の連接部１９の両側にそれぞれ紐Ｓの端末Ｓａを収容すると共に、ロック部材３から引き出される紐Ｓをケース部材４のはめ込み開口１２を通じて引き出し孔１３から引き出した状態（図１～図３）から、ロック部材３をはめ込み空間１４に前記のようにはめ込むと、前記係止面１５と前記係止部１６との間で紐Ｓが締め付けられ、紐Ｓに前記係止部１６が食い込むようになっている（図４）。これにより、前記紐Ｓの前記端末Ｓａに前記端末カバーＣが固定される。

【００３７】

前記ケース部材４及び前記ロック部材３の双方又はいずれか一方をプラスチックの成形品とすることで、これらの双方又はいずれか一方に所要の弾性変形特性を適切に備えさせることができる。

【００３８】

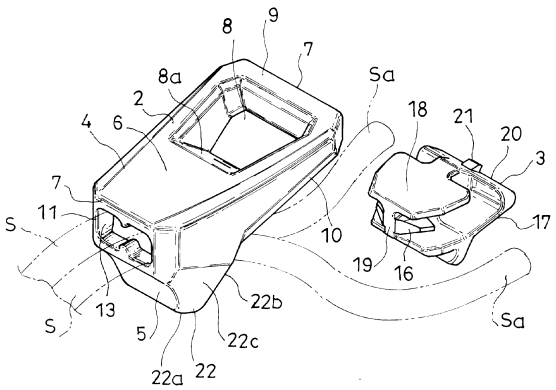
なお、当然のことながら、本発明は以上に説明した実施形態に限定されるものではなく、本発明の目的を達成し得るすべての実施形態を含むものである。

【符号の説明】

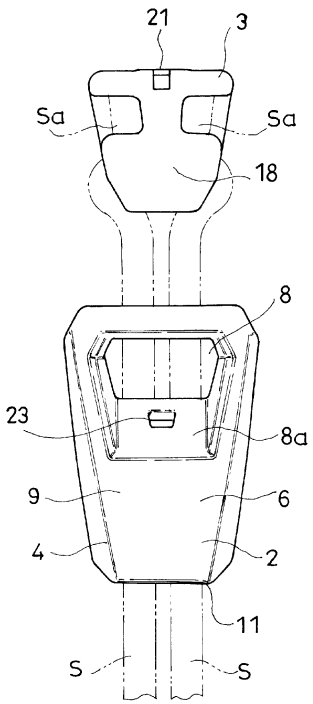
【００３９】

Ｓ　紐
Ｓａ　端末
Ｃ　端末カバー
１　指掛け突部
２　基部
５　第一指掛け面
６　第二指掛け面

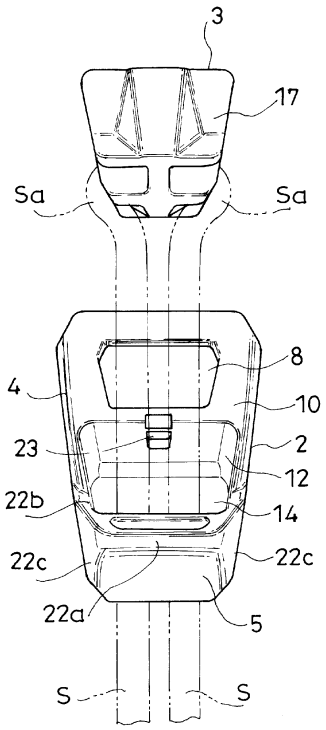
【図１】



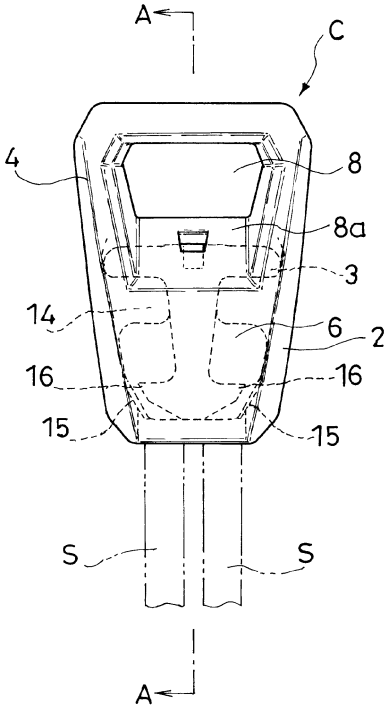
【図２】



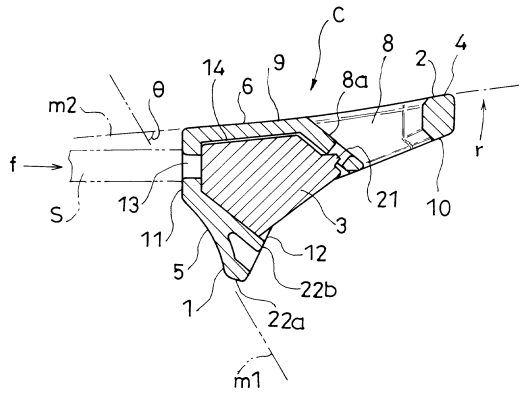
【図３】


3
17
Sa
Sa
8
4
10
23
2
12
22b
14
22c
22c
22a
5
S
S

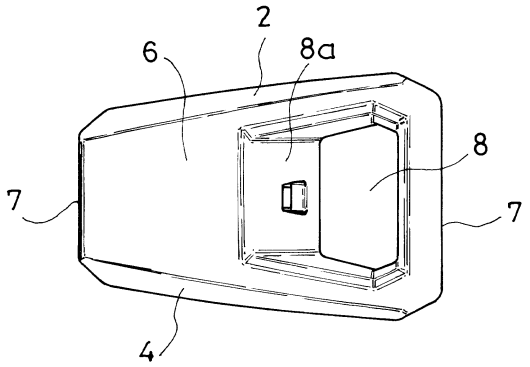
【図４】


A
C
4
8
8a
3
14
6
2
16
16
15
15
S
S
A

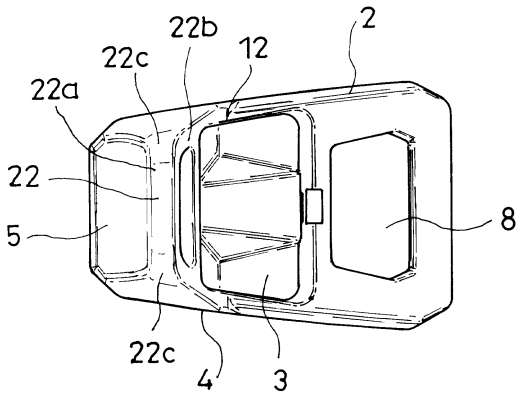
【図５】


C
8
2
4
14
9
θ
6
8a
m2
f
r
S
13
21
10
11
3
12
5
22b
1
22a
m1

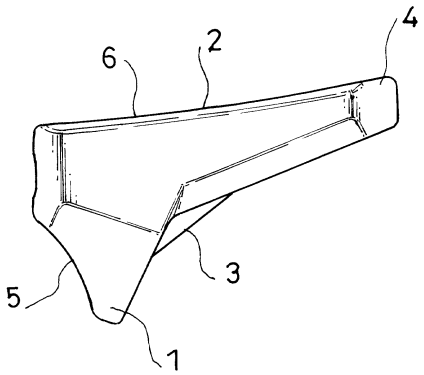
【図６】


2
6
8a
8
7
7
4

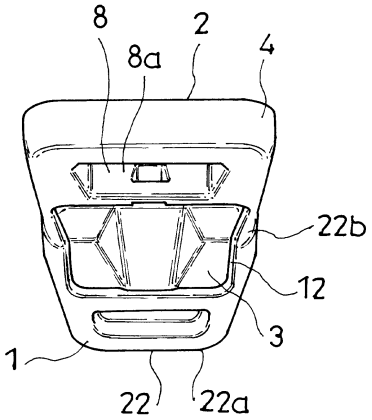
【図７】



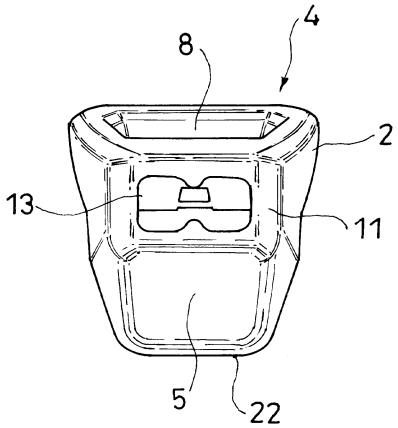
【図８】



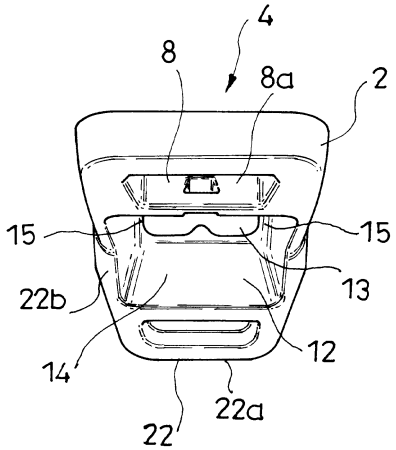
【図９】



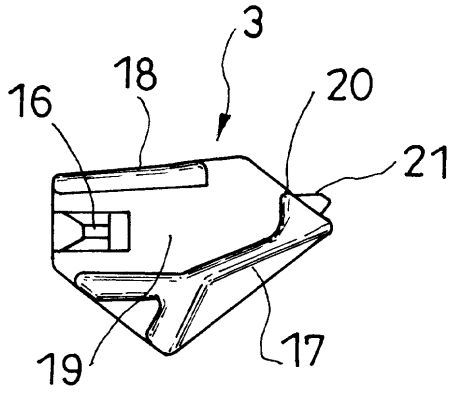
【図１０】



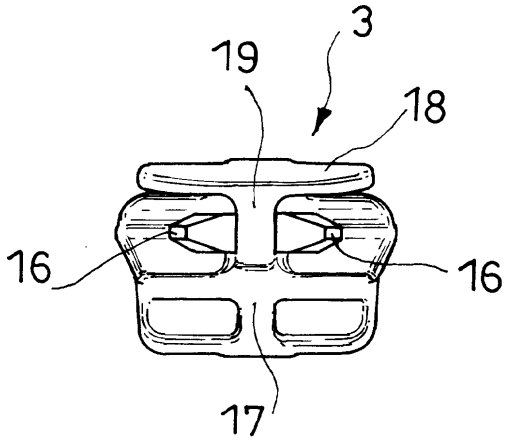
【図１１】



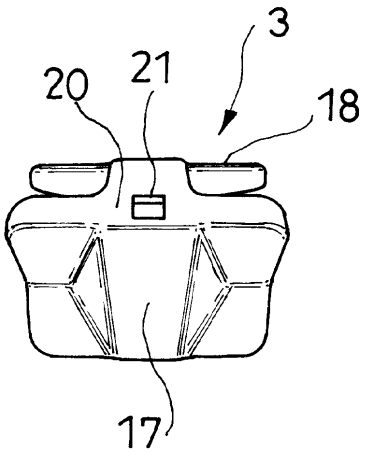
【図１２】



【図１３】



【図１４】



フロントページの続き

(56)参考文献　特開平０９－１６４００７（ＪＰ，Ａ）
国際公開第２０１６／００４８２７（WO，Ａ１）
特開２０１２－１３０５３８（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４４Ｂ　９９／００